

入選 香川県 吉嶋 一葉 様 (中学生)

「年金が入ったけん、お小遣いあげないかんのう」私が小さい頃から、祖母はよく言っていました。その頃はよく分からないままに喜んでいた記憶がありません。

私の祖父は63歳で仕事を退職し、その時から年金を受給しています。現在、祖父は78歳になり、年金で生活をしています。祖母は75歳で、60歳から年金を受け取り始めました。祖母はずっとおじいちゃんや家族のサポートをしながら家庭を支えて専業主婦をしてきたので、長年働いていた祖父とは異なり、国民年金のみを受け取っています。祖父の年金には厚生年金も上乘せされていることから、二人の受け取る金額には大きな差があるのだそうです。

この話を聞いたとき、私は少し驚きました。「年金」と一言で言っても、いろいろな形があることを知らなかったからです。祖母の国民年金は、主に自営業者や専業主婦などが加入するものです。一方で、祖父が受け取っている厚生年金は、会社などに勤めている人が加入するもので、国民年金に加えて支給されるものです。そのため、働いていた期間や収入によって受け取る金額に違いが出るのです。

先日、母の部屋にあった「ねんきん定期便」を見せてもらいました。そこには、これまで掛けてきた金額や、この先受け取ることができる金額までが分かりやすく書かれていました。私はそれを見ても、政府や企業ってちゃんとしていて凄いなあ程度にしか捉えていなかったのですが、母は年金についてもう少し話をしてくれました。

企業で働いている母は、確定拠出年金というものを掛けているそうです。これは、企業や個人が毎月一定額を払い込んで、将来的にその積み立てたお金を元にして年金を受け取る仕組みということでした。母は老後に備えて、国民年金と厚生年金に加えて、さらにこの確定拠出年金を利用しているそうです。個人で積み立てる年金や、企業が提供する年金制度は商品を個人で選択するものが多く、そこにはメリットとデメリットもあって、自分で勉強をして自身に合った方法を選んで準備することも重要だと知りました。

さらに話をしていたのは、年金は老後に受け取る「老齢年金」だけではなく「障害年金」もあって、怪我や病気で障害者認定を受けると受給されるという制度です。母の知り合いには、過度な仕事の原因で視力が非常に弱くなり障害

認定を受けるまでになり、母より若い年齢ながらも現在は障害年金を受け取っているというのです。

私たちの将来のために、様々な年金制度があるのを知ったと同時に、その選択肢がいくつもあることに驚きました。私たちの生活は、色々な社会の仕組みによって支えられていますが、その中でも「年金」は、老後や障害を負った際の生活を安定させるために欠かせない大切な制度で、他人事ではないと痛感しました。

ニュースでは、少子高齢化の影響で年金を支える若い世代が減少していることが問題視されているとよく耳にします。正直、私たちの世代が将来どのように年金を受け取れるか、不安を感じることもあります。そのためにも、早い段階から自分自身で老後に備える準備をすることが、ますます重要になるのでしょうか。

私は中学 3 年生で、将来のことをまだ具体的には考えられていませんが、家族の話聞いて、老後のことを少し考えるようになりました。祖父母のように安心して老後を過ごすためには、しっかりと働いて厚生年金を増やすことも重要だと感じました。また、母が利用しているような確定拠出年金や、個人年金といったものも考慮して、将来のために蓄えを増やしていくことが大切だと思います。

年金の大切さを少し知れたことで、この先は自分自身の未来だけではなく、祖父や祖母、社会全体のことについても考えるようになりました。私たち皆が安心して生活できるように、社会を支える一員として、この先成長していきます。